

意欲に応え、可能性を広げる 愛知淑徳の授業

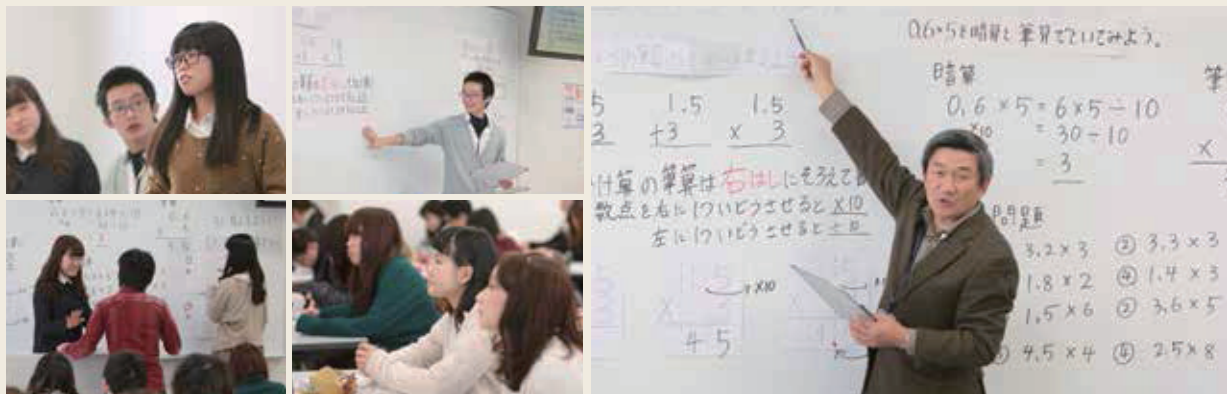
時代の先を見据えた教育に力を注ぐ愛知淑徳学園(大学・高等学校・中学校)のさまざまな授業を紹介いたします。
生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる教育現場の熱を伝えます。

大学

文学部
教育学科

教育方法

石黒 昭吉教授



模擬授業で指導力や思考力を磨き、
教員への志も高めます。

小学校教員や特別支援学校教員に必要なのは、子どもへの深い理解力や子どもの可能性を拓く指導力、柔軟な思考力、豊かな人間性です。その力を養う科目の一つである「教育方法」では、学校教育に関する知識を修得した上で模擬授業を実践し、教壇に立つ、初めの一步を踏み出します。授業者となる学生はグループごとに指導計画・指導案、教材を作成し、他の学生も児童役として参加。教員と子ども、両者の目線に立つてよりよい授業づくりをめざし、学生同士で意見交換しながら互いに学びを深めます。公立高校の校長などを歴任し、愛知県立の学校教育に従事した石黒昭吉先生は「未来を担う“人づくり”を本務とし、一人ひとりの成長を支える教職の魅力も、学生に伝えたい」と語り、教育への熱意を学生に手渡しています。

大学

メディアプロデュース学部
メディアプロデュース学科
都市環境デザイン専修

造形演習

高橋 敏郎教授



”物のかたち”を追究し、
観察力や感性を豊かに養います。

建築物は、安全性、健康性、快適性など多様な要素を緻密に計算し尽くし、構成されています。「造形演習」では、物のかたちの成り立ちと、材料と構造、空間の構成に関する知識を修得し、制作を通じて造形に対する感覚や計画力などを養います。課題の一つとして出されるのが、リビング・ダイニングルームの窓。採光、通風、眺望など、窓をつくる目的を考えながら、学生一人ひとりが1/50の模型を制作。高橋敏郎先生から講評を受け、造形の基本を学びます。「考え」を大切にすることが「デザイン」です。身のまわりにある建造物を見て、デザインの美しさだけではなく機能性も学び取れるよう、学生には観察力や感性を磨いてほしい」と高橋先生は期待を寄せ、次代の都市環境デザインを担う人を育てています。